

北國婦人ノ月經初潮年齢ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38538

十全會雜誌

（第四拾貳號）

原着及實驗

○北國婦人ノ月經初潮年齡ニ就テ

小川勝 陳共述
八田智証

（澤金）

春風ニ浴シ春水ニ滋サレテ茲ニ花信其端ヲ報スル如ク女子生ヲ享ケテ春機發動期ニ到ルヤ茲ニ月信ヲ報シテ其蕃殖的作用ヲ營ムノ域ニ達セシヲ告ク、此月信即月經初潮年齡ニ就テハ泰西諸家ノ報告ハ暫ク之ヲ措キ我邦ニ於テモ既ニ先輩ノ諸氏少カラズ其調査報告ヲ爲シ斯學ニ多大ノ功績ヲ與ヘラル、勿論各人其生育居住ノ土地、風俗人情、開明、氣候、人種並ニ個人的遺傳、休養、榮養、氣質、職業、生活、地位等ノ狀態ニ依リ種々ノ影響ヲ受ケ幾分ノ早晚ト多少ノ遲速ヲ來スノ別アルハ事素ヨリ其所ニシテ諸家ノ報告ニ於テ其結果必スシモ常ニ相等シカラス其間頗ル意ヲ留ムベキ變動ヲ顯ス所以一ニ之ニ基因ス、而シテ其報告ハ各方面ヨリ比較調査セラレ或ハ甲事項ニ重キヲ致スアリ或ハ乙事項ニ精シキヲ加フルモノアリテ各一定セス、即一汎月經初潮平均年齡ノ外更ニ職業及生活上ヨリ或ハ氣温上ヨリ或ハ季節上ヨリ或ハ地方的區別等ヨリ各其統計的結果ヲ報告セラル、ヲ見ルナリ

此ノ如ク月經初潮年齡ニ影響ヲ及スモノハ種々アリト雖我等ノ此報告ニ於テハ他ノ事項ハ兎ニ角若シ世運ノ進歩開明ノ度ガ之ニ關係ヲ有スルモノトセバ其影響果シテ如何ガナルベキヤ、遠キ以前ハイザ知ラズ我邦ノ如キ幕末騷然タル頃ヨリ海外トノ交通漸ク昌ニシテ人心ノ衝動甚シク殊ニ明治維新以來泰西ノ文物潏然トシテ上下ヲ風靡シ頗ル急足ノ進歩ヲナセリ、斯ル時勢ノ推移人文ノ發展ハ年代的世紀的ニ如何ナル傾向ヲ以テ之カ影響ヲ示スヤ、市ハ町ヨリ町ハ村ヨリ開明ノ度進ムトセバ市町村三者ノ關係如何、我等ハ其間ノ統計的消息ヲ窺フベク主トシテ調査ヲ企テシモノニシテ此事ニ就テハ未タ何人モ報告セラル、所ナキナリ、而モ之カ消息ヲ窺フニ足ルベキ年高キ人ハ年々凋落シ去テ益其數ヲ減スルト共ニ二月ニ之カ材料ニ欠乏ヲ來シ幾十年ノ後ニハ全ク得テ之ヲ聞クニ由ナキニ終ルベシ、人或ハ斯ル年代的統計ヲ目スルニ蛇足ノ感ヲ以テセンモ我等ハ今ニシテ之ヲ爲スニ非ンバ遂ニ之カ材料ヲ逸スルノ恐アリト信シ今日ノ場合最試ムベキ急務トシテ之カ結果ヲ報告スル者ナリ

我邦ニ於テハ古來太陰曆ヲ用非來レル爲其太陽曆ヲ用ユルニ至リシヨリ既ニ三十有餘年ノ久シキニ及フモ今日尙地方ニヨリ殊ニ年長者ニ於テ舊曆ヲ用ユル所アリ、改曆前ニ於ケル生年月ノ如キ專ラ舊曆ヲ用ユルハ理ノ當ニ然ルベキ所ナリト雖凡其改曆後ニ生レタル者ニシテ尙舊曆ノ年月日ヲ稱フルモノアリ、舊曆ニハ各月眞ニ大陰曆ニ從ヒ月ノ盈昃ニヨリテ之ヲ定ムルト所謂一ヶ月遅レノ太陽曆ヲ用ユルトノ別アリテ日常我等ハ其後者ヲ用ユル者ニ多ク接ス、故ニ改曆前後殊ニ明治五年以前ニ生レタル女子問診ニ際シテハ之ヲ明ニセザレハ延テ其統計的調査ニ誤ヲ生スルノ憂アリ、而シテ從來報告セラレタル諸家ノ調査ニ據レバ或ハ此陰曆ノ生年月ヲ陽曆ニ改算セラレタルアリ或ハ之ニ一ヶ月ヲ加算セラレタルアリ或ハ月數ヲ削除シ單ニ年數何年トシテ統計セラレタルアリ或ハ確ニ年月ヲ記憶セサル者ニ就テハ之ヨリ十二ヶ月ヲ減セラレタルアリ或ハ又其報告中特ニ之ヲ記サハルモノアルヲ以テ觀レバ改算モ

加算モ削減モセス陰曆ト陽曆トヲ全ク同一視シタル年月ノ下ニ調査ヲ施サレタリト看做サル、モノアリ

凡テ何事ニ限ラス事毎ニ其真ヲ捉フルヲ難キモノアリト雖統計ノ如キ可成の其多數ト且ツ詳細ニ互ラバ庶幾クハ比較的真ニ近キ平均數ヲ得以テ中庸ヲ尋テ事ノ常道ヲ察シ得ベキカ、而モ其多數ト詳細ニ互ルトハ事容易ノ業ニアラズ殊ニ我等ノ如キ生來數學的思想ノ零ナル者ニ於テハ一層其至難ヲ覺ユ、是ヲ以テ我等ハ統計數ノ少キ代リニ可及の精細ニシテ正確ナルヲ期セント欲シ改曆以前ニ生レタル者ハ凡テ之ヲ次ノ如キ方法ヲ以テ太陽曆ニ改算換定セリ此調査ハ曾テ小川教授ヨリ逕憑セラレタルモノニシテ去三十六年四月大坂博覽會ノ際開カレタル第二回日本婦人科學會ニ報告スル都合ナリシモ事志ト違ヒ一時之ヲ中絶スルノ止ムナキニ立至リ、其後着手セル子宮筋腫ト癌腫トノ統計的比較調査(本誌第三十五、三十六號登載)ハ其調査例數ノ一層少數ナリシ爲ニモセヨ却テ早ク成了シ其翌年七月第五回本會ニ於テ報告セリ、然ルニ今春折ニ觸レ再ヒ之ヲ繼續遂行スルノ意アリ乃チ舊稿ニ就テ再調査ヲナシ今日同シク本會ニ於テ諸君ニ報告スルノ運ニ至レルモノ、若シ些少ノ參考ニモナルヲ得バ望外ノ榮トスル所ナリ

一 本報告ノ調査人員數ハ一千名ニシテ是其%數ヲシテ一目瞭然且ツ記憶ニ便ナラシメンカ爲ナリ

二 本報告ハ去三十六年ノ初其調査ニ着手セルモノニシテ明治三十三、四、五ノ三ヶ年ニ互ル石川縣金澤病院婦人科外來經過錄ニ就キ年月日(但シ日ノ明記セラレタル者ハ少數ナリ)明了ナル者ノミヨリ蒐集シタルモノナリ

三 本報告ノ調査人員ヲ國籍ニヨリ別テハ加賀、越中、能登、越前ノ四ヶ國ニシテ、其市ト稱スルハ金澤、高岡、富山、福井ヲ云ヒ、町トハ加賀ニテハ大聖寺、小松、美川、松任、鶴來、金石、津幡、越中ニテハ石動、津澤、福光、城端、福野、井波、出町、戸出、福岡、中田、大門、伏木、氷見、新湊、小杉、四方、東岩瀨、八尾、新庄、水橋、滑川、上市、五百石、上瀧、魚津、生地、三門市、入善、舟見、泊、能登ニテハ羽咋、

高濱、七尾、宇出津、飯田、輪島、越前ニテハ丸岡、三國、勝山、大野、鯖江、武生、敦賀ヲ以テ之カ指定範圍トナシ、近年村ヨリ町トナレル能登穴水町ノ如キハ此内ニ含まサルモノトス

四 本報告調査人員ノ生年月ハ天保六年四月ヨリ明治二十一年十月ニ至ル間ニシテ、最早期ニ初經潮來セシ者ハ生後十一歳ニケ月最晚キ者ハ十九歳九ケ月ナリ

五 明治五年十二月三日太陰曆ヲ廢シテ太陽曆ヲ用キ明治六年一月一日ト改メラレタルヲ以テ此報告ニ於テハ其以前ニ生レタル者ハ凡テ太陽曆ニ改算セリ、而シテ其生年月日ノ明瞭ナル者ハ陽曆ノ年月ニ改ムルコト容易ナリト雖單ニ生年月ノミ明ニシテ生日ノ明ナラザル者ハ直ニ之ヲ陽曆ノ年月ニ改メ難キコト尠カラス例者陰曆某月ヲ陽曆ニ配スルニ某々兩月ニ跨ルガ如キ是ナリ、斯ル場合何人モ陰曆某月ハ陽曆ノ何レノ月ニ改メテ可ナルヤハ大ニ惑フ所ナルベク、我等ハ此際暫ク月ノ中央即其初終ニ偏セサル十五日ヲ以テ之カ生日ト假定シ陰曆某月トアルヲ更ニ某月十五日トシ此十五日ハ陽曆何月ニ當ルヤトノ意見ノ下ニ改算ヲ施セリ、而シテ其改算ハ一ニ明治三十六年神宮司廳發行ノ曆本ニ據レリ

六 從テ本報告ハ生後何年何ケ月月經初潮トシテ調査セルモノニシテ凡テ日數ハ之ヲ加算セズ、只各平均年齢ヲ求ムルニ當リ割リ切レザル剩餘ノ月數ハ更ニ之ヲ日數ニ改メ、三十日ヲ以テ一ケ月ト看做シテ運算ヲ施シ其商ヲ得、更ニ商ニ就テハ日數以下ハ之ヲ四捨五入ノ法ニ從ヒ取捨セリ

七 各表中人員數ト之ニ相當スル合計月數ヲ併示スル所以ノモノハ(或ハ括弧内)、商ニ於ケル日數以下ハ四捨五入セシモノナルヲ以テ單ニ商ノミヲ記スキハ或ハ多少ノ誤解ナキヤラ恐ルト且ツハ萬一運算上誤謬ナキニシモアラサルヲ恐ル、ト共ニ、今後斯ル統計ヲ爲スニ當リ幾分ノ參考ニモナレカシト思フヨリ雜駁ヲモ省メズ

第一 表

特ニ記スモノナリ

月經初潮年一月覽表

計換 月算 數合	%	人合 員計	月												月/ 年	初 潮
			11 ^月	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0		
1120	0.8	8	1	2	2		1	1					1			11
7883	5.2	52	8	6	8	10	5	2	6	1	3	2	1			12
35275	21.8	218	23	23	21	22	11	17	15	14	18	20	15	19		13
49938	28.8	288	16	28	23	23	22	31	23	26	24	25	26	21		14
44916	24.3	243	17	17	14	22	7	20	16	23	25	35	31	16		15
22523	11.5	115	7	1	6	5	7	7	6	15	14	12	15	20		16
9806	4.7	47	1	5	3	4	3	2	4	2	6	6	7	4		17
5061	2.3	23	1	1	2		1	1	3	2	1	6	3	2		18
1390	0.6	6			1				1		2	1		1		19 ^才
177912 ^月	100%	1000 ^人														

177,912^月 : 1000^人

∴ 一人ニ當ル年月日平均數 = 14^年 9^月 27^日

即 月經初潮平均年齡 十四歲十ヶ月

我等カ調査セシ一千名ノ初經年月及合計數並ニ%數ハ第一表ニ示スカ如シ、是ニ由テ之ヲ觀ルトキハ最早十一歲二ヶ月最晚十九歲九ヶ月ニシテ全体ノ換算月數總計十七萬七千九百十二ヶ月ニシテ其一人ニ當ル平均年齡ハ滿十四歲九ヶ月二十七日ナリ、其中十四歲ニ於テ來ル者最多ク 28.8% ニ上リ十五才之ニ次キ 24.3% 十三歲更ニ之ニ次キ 21.8% 即十三歲乃至十五歲ニ來ル者ハ實ニ全數ノ 74.9% ヲ占ム、從テ其前後ニ於テハ頗ニ減少シ十六、十二、十七、十八、十一、十九歲ノ順序ヲ以テ逐次遞減ス、今此平均年齡十四歲九ヶ月二十七日ヲ四捨五入シテ滿十四歲十ヶ月トシ、從來我邦ニ於テ各調査人員二百五十名以上ニ就キ報告セラレタル諸氏平均年齡ト相比較對照セバ則チ左表ヲ得

第 二 表 A

初經平均年齡	調査人員數	報告者氏名
14.6 ^オ 月	277 ^人	高田 (京東)
14.7	1250	楠田 (京東)
14.8	1000	柳 (京東)
14.8	1015	濱田 (京東)
14.9	1187	緒方 (坂大)
14.10	450	木下 (京東)
14.10	1000	著者 (澤金)
14.11	1585	山崎 (本熊)
15.4	4265	片山 (坂大)
15.5	366	片山 (京東)
15.7	1276	安田 (屋古名)
15.9	3495	山田 (澤金)
15.9	423	熊谷 (屋古名)

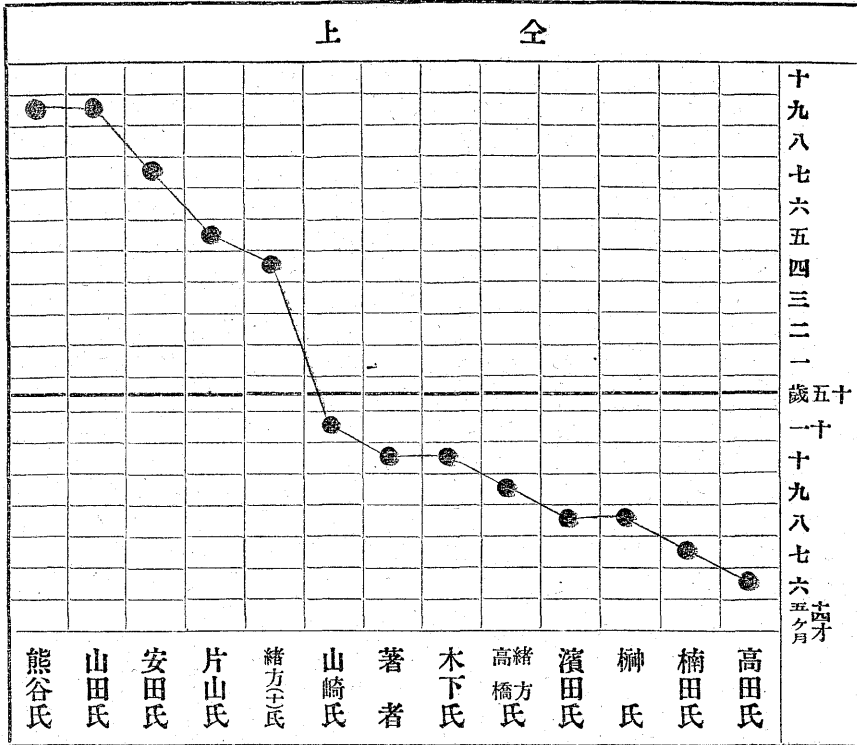
日本婦人初經年齡諸氏報告比較表

(順序ハ報告ノ年月ニヨラズシテ
初經平均年齡ノ遲速ニヨレリ)

濱田氏 = 東京醫科大學婚姻年齡
取調委員報告

報告年月ノ前後ニヨラズ全ク平均年齡ノ遲速ニヨリ序列セル以上十三ノ報告ニ於テ最早キハ高田氏ノ十四歲六ヶ月最晚キハ山田氏及熊谷氏ノ十五歲九ヶ月ニシテ、滿十五歲以前ニ於テ來ルハ高田、楠田、柳、濱田、緒方高橋、木下、著者及山崎氏ノ八報告ニシテ滿十五歲以後ニ屬スルハ緒方(十)、片山、安田、山田、熊谷氏ノ五報告ナリ、而

第二表 B



上其中庸ヲ得タルモノト看做シテ可ナルヤ否ヤ、思フニ熊谷氏ノ娼妓高田氏ノ女子大學ニ於ケル調査ヲ除クノ外諸

(原著及實驗)

シテ此等ノ諸報告ハ其調査地ヲ一ニセズ且ツ調査材料タル女子ニ於ケル内外ノ諸關係各相等シカラザルモノアルノミナラズ其改曆前ニ生レタル者ニ付テノ年月の算定ヲ異ニスルモノアルヲ以テ其結果ノ相一致セサル決シテ怪ムニ足ラザルナリ、今此各平均年齢ニ因リ更ニ總人員一萬七千五百八十九人ノ總平均年齢ヲ求ムルニ滿十五歲ニテ月六日即十五歲ニテ月強トナルモ、以上ノ報告中滿十五歲ニテ月ニ相當スルモノ一モアルヲ無ク其最之ニ近キモノハ緒方(十)氏ノ十五歲四ヶ月ニシテ片山氏ノ十五歲五ヶ月及山崎氏ノ十四歲十一ヶ月之ニ次クモ、高田氏ノ十四歲六ヶ月楠田氏ノ十四歲七ヶ月山田氏及熊谷氏ノ十五歲九ヶ月ノ如キハ之ト相距ル各半歲以上ナリ此ノ如ク諸報告ニ基ク總平均年齢ハ十五歲二ヶ月ナリト雖果シテ此數ハ一汎日本婦人初潮年齢

氏ノ調査セシ材料ノ大多數ハ殆ント婦人科患者トシテ來診セシ者ニシテ、此等ノ婦人ハ多ク結婚後婦人科の疾病ニ侵サレタル者殊ニ最多クハ初經潮來後ニ於テ罹患セシ者ナルモ而モ亦先天性或ハ後天性ニ初經潮來前ニ既ニ全身の或ハ内外科或ハ婦人科の疾患ヲ有シタル者ナキニアラズ、故ニ無病健全ナル女子ノミニ就テ調査セシ平均年齢トハ其間多少ノ差異ナキ能ハズト雖只幸ニモ一汎婦人科外來患者トシテ初經潮來以前ヨリ既ニ罹患セシ者ハ甚タ少數ナルカ爲メ今此等ノ婦人ニ就テ調査セシ總平均年齢ヲ以テ我邦一汎婦人初經年齡ノ中庸ヲ示スモノト見テ差支ナカルベキカ、而シテ上記諸氏ノ報告ハ凡テ我邦本洲ニ屬シ北海道臺灣ニ於ケル調査ハ未タ聞ク所アラザルヲ以テ、我邦本洲婦人ノ月經初潮年齡ハ先ツ平均滿十四歲六ヶ月ヨリ十五歲九ヶ月即一年四ヶ月ノ間ニ在リテ滿十五歲ヲ以テ其中庸ヲ得タルモノト推定シ大ナル誤謬ナシト信ス、即本洲ニ於テハ滿十五歲前後ニ於テ月華開ク者ヲ普通一汎ノ婦人ト看做シテ可ナルベキナリ

第二表 A ニ掲ケタル如ク諸氏ノ調査人員數各一定セザルモノアリ、各年齡ニ於ケル初經人員ト%數トヲ對照スルニ第四表ノ如キモノアリト雖、此ニ遺憾トスル所ハ我等ノ座右諸氏報告ノ文籍悉ク存セズ從テ之ヲ網羅シ之ヲ較列スルコトヲ得ザルニアリ、而シテ此表ニ據リテ見レハ山崎氏ノ十五歲ニ於ケル外他ハ凡テ十四歲ニ於テ其最多ク來ルヲ顯スモノニシテ其山崎氏ト雖十四歲ト十五歲トニ來ル者ノ差ハ僅ニ $\frac{1}{10}$ 餘ニ過キササルヲ以テ日本婦人全体ニテハ十四歲ニ於テ最多ク初經ヲ見ルト謂フヲ得ベシ、之ニ次クハ高田氏ヲ除ク外十五歲ニシテ十五歲ニ次クモノヲ十三歲トシ、十四、十五、十三歲三者ノ差ハ互ニ相甚シカラザルモ之ヨリ前後ニ於テハ各頓ニ減少スルモノアリ、即十三歲乃至十五歲ノ三ヶ年ニ於テハ殆ント全數ノ $\frac{1}{2}$ 以上ヲ占メ濱田氏ニテハ 72.50% 山田氏 68.14% 楠田氏 72.48% 高田氏 80.89% 山崎氏 72.56% 著者 74.9% ニ達シ尙緒方高橋兩氏ニヨレバ 63.3% ニ至ルト云フモ獨リ緒方(十)氏ニ

(原著及實驗)

第四表

十六歲以後	十三—十五歲	十二歲以前	氏名	
			初經年齡	氏名
17.71	72.50	8.76%	氏田濱	全 上
26.04	68.14	5.82%	氏田山	
15.92	72.48	11.60%	氏田楠	
11.91	80.89	7.22%	氏田高	
21.45	72.56	5.99%	氏崎山	
34.98	$\frac{13-15=58.66}{14-16=60.39}$	6.38%	氏(十)方緒	
19.1	74.9	6.0%	者 著	

第五表

19 11 18 17 12 16 13 15 14	氏田濱	初經人員數ノ多寡ニ基ク 年齡ノ排列
9 21 10 20 19 11 18 12 17 16 13 15 14	氏田山	
20 19 11 18 17 12 16 13 15 14	氏田楠	
19 { $\frac{18}{11}$ 17 12 16 15 13 14	氏田高	
21 10 20 19 11 18 17 12 16 13 14 15	氏崎山	
10 21 22 20 11 19 18 12 17 13 16 15 14	氏(十)方緒	
19 11 18 17 12 16 13 15 14	者 著	

今第三表ニ據リ更ニ月經初潮人員數ノ多寡ニ基ク年齡ノ排列如何ト見ルニ實ニ第五表ノ如キモノアリ、即諸氏各多少ノ相違ナキニアラザルモ殆ント其順序ヲ一ニシ配列ヲ等シクスルヲ見得ヘク 14歳 15 13 16 12 17 18 11 19 20 10 21 9ヲ以テ畧ホ其定型的の序例ト看做シ得ヘキナリ

追白 去四月五日第四回日本婦人科學會ニ於テ東京醫科大學婦人科教室ノ大塚憲達氏ハ其調査ニカ、ル初經年齡

ヲ十四歲十ヶ月ナリト云ヒ其教授木下氏ノ調査成績ト同一ナリシコトヲ報告セラレタリ

* * * * *

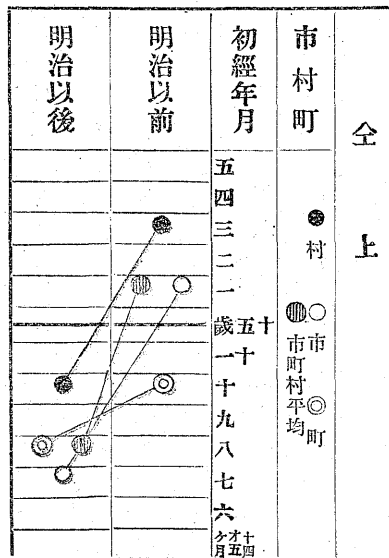
第七表 A

明治以後	明治以前	市		町		村		合計
		人數	平均年齡	人數	平均年齡	人數	平均年齡	
330 14.7.24 (58014)	62 ^人 15.1.5 ^日 (11232)	172	14.8.1 (30352)	50	14.10.25 (8942)	291	14.10.17 (51960)	793 14.8.29 (140326)
								207 15.1.17 (37586)

明治前後ニ於ケル市町村ト初經年齡

今此初經年齡ヲ生年曆ニ從ヒ明治前後ニ大別シ所謂年代的ニ如何ナル差異ト關係ヲ呈スルカラ見ルニ市町村ニ就テ左表ノ如キモノアリ、即明治以前ニ生レタル者ニ就テハ千人中二百七人ニ過キザルモ其初經平均年齡十五歲一ヶ月十七日ニシテ明治ニ入りテヨリ生レタル者ニ就テハ七百九十三人平均十四歲八ヶ月二十九日其差前者ヨリモ早キコ

第七表 B



B表ニ於テハ日數以下ハ削除シ單ニ月數トシテ表記セシモノナリ第八、九、十ノB表及第十五、十六表亦之ニ倣フ

ト約五ヶ月ナリ、之ヲ細別スルニ前者ニ於テハ市六十二人十五歲一ヶ月五日町五十八人十四歲十ヶ月二十五日村九十五人十五歲三ヶ月九日、後者ニ於テハ市三百三十人十四歲七ヶ月二十四日町百七十二人十四歲八ヶ月一日村二百九十一人十四歲十ヶ月十七日ニシテ、後者ニテハ市ハ町ヨリ一ヶ月町ハ村ヨリ二ヶ月早ク初經潮來ヲ示スト雖前者ニテハ町最早クシテ却テ市ヨリモ三ヶ月村ヨリ五ヶ月早期ニ潮來セシコトヲ示スモノアリ、此ノ如ク前者ニ於テ市ノ町ヨリ遅レタル平均年齡ヲ見ルハ是レ或ハ統計數ノ少キ爲ナル故ナランカ、切ニ後來ノ是正ヲ待ツ、而シテ明治以

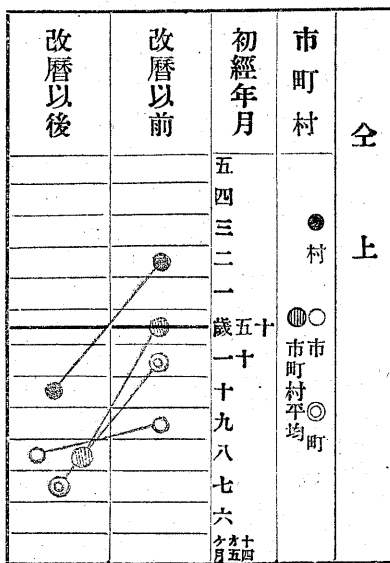
(原著及實驗)

後ニ於テハ明治以前ニ於ケルヨリモ市ニ於テ六ヶ月町ニ於テ二ヶ月村ニ於テ五ヶ月ノ早期來潮ヲ來シ尙市町村全体ノ平均年齡ニ於テ約五ヶ月ノ早期ヲ見ルハ殊ニ注目スヘキ所ナリトス
尙之ヲ大陰曆即改曆以前ニ生レタル者ト太陽曆即改曆以後ニ生レタル者、換言スレハ其生年月上陰曆ヲ陽曆ニ改算シタル者ト改算ヲ要セサリシ者トニ就テ區別スレハ則チ左表ノ如クニテ、改曆以前ニ屬スル者三百三十四人平均年

A 表 八 第

改曆以後	改曆以前	市		町		村		合計	
		人數	平均年齡	人數	平均年齡	人數	平均年齡	人數	平均年齡
284 14.8.10 (50074)	108 ^人 14.9.16 ^日 (19172)	136	14.7.10 (23847)	86	14.11.18 (15447)	246	14.10.4 (43824)	666	14.8.24 (117745)
		334	15.00.4 (60167)						

B 表 八 第



齡十五歲四日改曆以後ニ屬スル者六百六十六人十四歲八ヶ月二十四日ニシテ其差約四ヶ月ノ遲速アリ、而シテ前者ニ於テハ市百八人平均十四歲九ヶ月十六日町八十六人十四歲十一ヶ月十八日村百四十人十五歲二ヶ月十五日ニシテ市ハ町ヨリ二ヶ月町ハ村ヨリ三ヶ月早ク潮來スルコトヲ知り得ベク、後者ニ於テハ市二百八十四人平均十四歲八ヶ月十日町百三十六人十四歲七ヶ月十日村二百四十六人十四歲十ヶ月四日ニシテ市ハ町ヨリ一ヶ月遅ク町ハ村ヨリ三

ケ月早く潮來セシコトヲ知り得ベシ、而シテ改曆以後ニ於テ市ノ町ヨリ一ヶ月遅レタルヲ見ルハ是亦其調査數ノ少キ故ナルベク一ニ他ノ多數ノ統計ヲ待テ之カ確實ナル決定ヲ希フモノナリト雖、更ニ改曆前後ヲ比較スルニ以後ハ以前ヨリモ市ニ於テ一ヶ月町ニ於テ四ヶ月村ニ於テ同シク四ヶ月ノ早期來潮ヲ見且ツ市町村全体ニ於テ約四ヶ月ノ早潮ヲ見ル所又故ナキニ非ルベキナリ

今一層詳細ニ年代上ニ於テノ差異ナルモノガ如何ナル關係ヲ其間ニ示スカヲ知ランカ爲ニ明治元年ヲ基點トシテ前後毎十年ニ亘リテ調査セント欲セシモ、而モ毎十年ニ分ツヨリモ寧ロ歴史の變遷ト社會ノ風潮トニ鑑ミ天保、弘化(十二年)、嘉永、安政(十二年)、万延、文久、元治、慶應(八年)、明治元年―十年、全十一年―二十年ト云フ如ク區別スルヲ以テ統計的趣味多ク且ツ毎十年ニ區別シタル結果トサシテ著シキ差異ナカルベシト信シ、茲ニ第九表ノ如キ結果ヲ得タリ

即總人員九百九十八人ニシテ是レ明治二十一年ニ生レタル二人ヲ除キタルガ爲ナリ、此表ニ就テ見ルニ天保弘化十人平均年齢十五歳八ヶ月、嘉永安政六十六人十五歳三ヶ月二十日、万延文久元治慶應百三十一人十五歳一日、明治元年―十年三百三十六人十四歳十ヶ月十七日、全十一年―二十年四百五十七人十四歳七ヶ月二日ニシテ其間各數月宛ノ差異ヲ以テ逐次遞減シ、最晩天保弘化ノ十五歳八ヶ月ヨリ最早十四歳七ヶ月ニ至ルニ及ンテ一年一ヶ月ノ遲速ヲ見ルナリ、而シテ市町村別並ニ之カ相互ノ關係ハ更ニ表中細示セシ所ニ就テ一瞥セバ思半ニ過クルモノアラン、只其統計數ノ餘リニ少キ爲一概ニ之ヲ云爲スルニ非ルモ而モ如何ナル關係ノ下ニ其影響ガ顯ル、カヲ畧ホ推攻スルニ足ルヘシト信ス、若シ夫レ各州各地方ヨリ一國ニ及ヒ更ニ延テ洋ノ東西ニ亘リテ幾十年幾百年ノ久シキ、多數ノ婦人ヨリ年代的ニ世紀的ニ此ノ如キ統計的調査ヲ試ミ相比較對照セバ寔ニ斯學上趣味津々トシテ盡キサルモノア

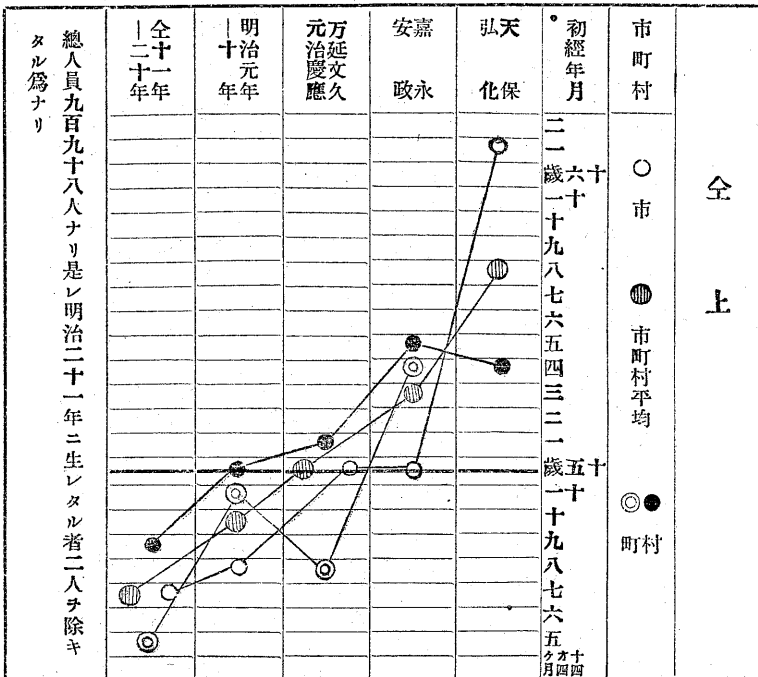
(原著及實驗)

第九表 A

全 二十 一年	明 治元 年	元 慶 治 久 (年八)	嘉 政 永 (年二十)	天 化 保 (年三十)	年 曆		市 町 村
					市	町 村	
200 14.7.20 (35130)	129 14.8.6 (22726)	39 15.00.14 (7038)	19 15. (3420)	4 16.1.15 (774)	人 數 年 齡 平 均 合 計	人 數 年 齡 平 均 合 計	市
87 14.5.1 (15055)	85 14.11.29 (15297)	34 14.8.8 (5993)	16 15.4.9 (2949)	0	人 數 年 齡 平 均 合 計	人 數 年 齡 平 均 合 計	町
168 14.9.15 (29822)	122 15.00.3 (21971)	58 15.1.29 (10554)	31 15.5.16 (5752)	6 15.4.10 (1106)	人 數 年 齡 平 均 合 計	人 數 年 齡 平 均 合 計	村
457 14.7.2 (80007)	336 14.10.17 (59994)	131 15.00.1 (23585)	66 15.3.20 (12121)	10 15.8 (1880)	人 數 年 齡 平 均 合 計	人 數 年 齡 平 均 合 計	合 計

月經初潮年齡ノ遲速ト年曆トノ關係

第九表 B



總人員九百九十八人ナリ是レ明治二十一年ニ生レタル者二人ヲ除キタル爲ナリ

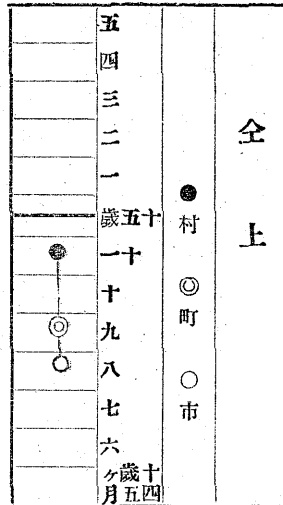
ルベキナリ
以上一千名ニ就キ其市町村全体ニ於ケル各平均年齢ヲ索ムルニ第十表 A Bノ如クニシテ如何ニ市ニ於テ最早ク村

ニ於テ如何ニ最晩ク初潮スルカノ一端ヲ窺フコトヲ得ベシ、即市ハ町ヨリ一ヶ月町ハ村ヨリ二ヶ月從テ市ハ村ヨリ三ヶ月早ク潮來スルノ事實ハ前來ノ各表ト併セ見テ人文ノ發達開明ノ度カ如何ニ年代的ニ將タ市町村のニ各影響ヲ及ホスモノナルカヲ多少説明シテ餘アリト謂フヲ得ベク、我等ハ決シテ偶然ノ事實ニアラザルヲ信スルト共ニ後來學者ノ比較補正ヲ待テ之カ解決ヲ試ント欲スル者ナリ

第十表 A

市		町		村	
人數	平均年齡	人數	平均年齡	人數	平均年齡
392	14.8.19	222	14.9.	386	14.11.22
(69246)	合計	(39294)	合計	(69372)	合計

第十表 B



我等ハ此市町村ヨリ更ニ國籍ニ就キ之ヲ類別シ其調査材料ヲ與ヘシ加賀、越中、能登、越前ノ四ヶ國ニ於ケル市町村ノ關係ヲ知ルヘク第十一表ヲ得タリ

之ニ依リ加賀、越中、越前ノ市町村、能登ノ町村ニ於ケル各關係ヲ比較對照シ得ヘシト雖唯越前ニ於テハ全數僅ニ二十例ニ過キササルヲ以テ今之ヲ除キ他ノ三國ニ就テ觀察スヘシ、即市ニテハ加賀三百十四人平均年齡十四歲九ヶ月二十五日越中七十二人十四歲五ヶ月十三日其差四ヶ月、町ニテハ加賀五十二人十四歲十一ヶ月五日越中百二十七人十四歲六ヶ月二十五日其差五ヶ月、村ニテハ加賀百三十四人十五歲五日越中百五十六人十四歲十ヶ月二十六日其差二ヶ月ナルモ、能登ノ町村ハ三十八人十四歲十一ヶ月十三日並ニ八十七人十五歲二十四日ニシテ加賀ノ町村ト稍々

表 二 十 第

$15.00.22 = (28375) 157^A$ $14. 9.18 = (60921) 343$	前曆改 後曆改	加 賀	改曆前後ニ於ケル加越能四州ト 初經年齡
$14.10.14 = (21237) 119$ $14. 7. 7 = (41356) 236$	前曆改 後曆改	越 中	
$15. 2.27 = (9145) 50$ $14.10.22 = (13404) 75$	前曆改 後曆改	能 登	
$14. 7 = (1400) 8$ $14. 1.18 = (2035) 12$	前曆改 後曆改	越 前	

表 三 十 第

$15. 3. 5 = (17949) 98^A$ $14. 9.14 = (71347) 402$	前治明 後治明	加 賀	明治前後ニ於ケル加越能四州ト 初經年齡
$14.11.14 = (12563) 70$ $14. 7.16 = (50030) 285$	前治明 後治明	越 中	
$15. 2.13 = (6567) 36$ $14.11.17 = (15982) 89$	前治明 後治明	能 登	
$13. 9.12 = (497) 3$ $14. 4.25 = (2938) 17$	前治明 後治明	越 前	

人十四歲十ヶ月十四日改曆後二百三十六人十四歲七ヶ月七日ニシテ其差同シク三ヶ月、能登ニテハ改曆前五十人十五歲二ヶ月二十七日改曆後七十五人十四歲十ヶ月二十二日ニシテ其差四ヶ月、越前ニテハ改曆前八人十四歲七ヶ月改曆後十二人十四歲一ヶ月十八日ニシテ其差六ヶ月ナリ、故ニ改曆前ニテハ越前ノ十四歲七ヶ月ヲ最早トシ能登ノ十五歲二ヶ月二十七日ヲ最晩トナシ改曆後ニテハ同シク越前ノ十四歲一ヶ月十八日ヲ最早トシ同シク能登ノ十四歲十ヶ月二十二日ヲ最晩トナス、此ノ如ク改曆前後共ニ越前ヲ最早トシ越中之ニ亞キ能登最晩クシテ加賀ハ其間ニ在リ、斯ル關係ハ明治前後ニ依リテ分類セシ第十三表ニ於テ亦之ヲ見得ヘシ、而モ今其數頗ル僅少ニシテ統計的推定

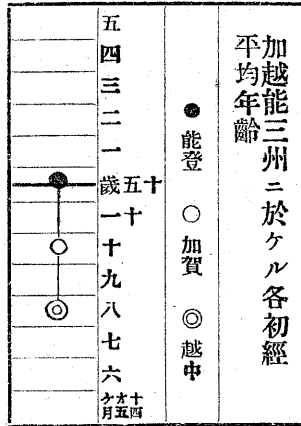
(原著及實驗)

ヲ下シ難キ越前ヲ全然此両表ヨリ除クトスルモ何故ニ越中最早ク加賀之ニ次キ能登最晩ル、カ、我等ハ左ノ各表ニヨリ愈其然ルヲ見ルモノアリ、即加賀ニテハ五百人ノ年齢十四歳十月十八日越中三百五十五人十四歳八ヶ月十日能登百二十五人十五歳十二日ニシテ加賀ハ越中ヨリ二ヶ月遅ク能登ヨリ二ヶ月早シ、而シテ越中ヨリモ五ヶ月早キ越前ニ就テハ前陳ノ如ク今之ヲ云爲スルニ足ルモノナシトスルモ餘ノ加越能三州ニ就テハ蓋シ一言ノ要アリ

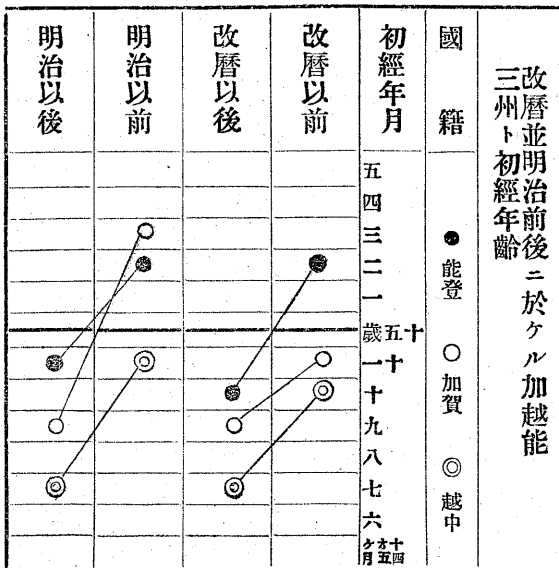
第十四表

14.10.18 = (89296)	500人	加越能四州ニ於ケル 各平均初經年齡	賀加
14. 8.10 = (62593)	355		中越
15.00.12 = (22549)	125		登能
14. 3.23 = (3435)	20		前越

第十五表



第十六表



思フニ加越能三州ハ舊前田侯ノ治メシ所ニシテ三百年ノ久シキ鞠躬如トシテ消極的事勿レカシ引込主義ヲ採レル藩

政ノ人心ニ影響ヲ及ホセシコト尠シトセズ、之カ爲メ人ハ偏狹ニ流レ因循ニ陥リ常ニ舊守ヲトシ姑息ニ没スルノ傾アリ、而モ越中ノミハ古來反魂丹ノ名ト共ニ夙ニ四方ヲ横行シ足跡天下ニ普キノ風アリ從テ其心開放的世界的ニシテ見聞廣ク世故ニ通シ辭禮ニ慣レ一州ヲ舉ケテ商人的ナリ、女子亦之ニ陶冶セラレテ一体ニ物事ニ辨ヒ能ク決斷心ニ富ムヲ認ムルモ、能州ノ地タル遠ク日本海中ニ突出シ海岸線延長セリト雖丘嶺崎嶇トシテ寧ロ孤立ノ狀アリ之カ爲ニ其心偏狹ニ近ク鎖國的割據的ニシテ一州ヲ舉ケテ農民的ナリ、從テ女子亦之ニ馴致セラレテ因循ノ風アリ故ニ越中ノ婦女子ニ比シテ一汎ニ愚痴ツボク事ニ當リテ躊躇スルノ色アリ、而シテ加賀ハ此二州ニ比シテ多少教育盛ニ開明ノ度進ムカ如キ觀ナキニシモアラズト雖慣習ノ脱セサル封建的ノ遺風尙存シ武士的舊守的傾向アリ、之カ爲婦女子亦姑息ニ流レ暢達ノ氣ニ乏シ、今之ヲ比喩セバ越中ハ宿屋加賀ハ両替屋能登ハ一家相傳ノ秘法深ク所謂舊家ト稱スル藥店ノ風アリト稱スベキカ、若シ夫レ初診先ツ開腹術ヲ要スル者アリトセンニ越中ノ婦女ハ直ニ之ヲ諾シテ入院治療ヲ乞フモ加賀ノ婦女ハ一旦歸宅シテ相談ノ上再ヒ來ラント云ヒ能登ノ婦女ハ一タヒ之ヲ聞ク恐怖遂ニ再來診療ヲ乞ハザルカ如キヲ見ル以テ器ノ如何ヲ察スヘキナリ、尙我等ハ未タ統計的調査ヲ試ミタルニ非ルモ越中ニ於テハ多少早婚ノ弊アルカ如キヲ覺ユ、全國一汎ノ婦女子ハ通例十五六歳ヲ以テ其婚嫁期トシ早キハ十三四歳ニシテ既ニ歸グ者アリ若シ十七八歳ニシテ尙嫁セザルカ如キアレバ人舉ツテ之ヲ怪ムヲ以テ父母競テ弱齡ノ者ヲ婚嫁セシムル頗ル急マタ他ヲ顧ルニ暇アラサルノ風アリ、此弊ヤ啻ニ全國ノミニ止ラス加賀能登ニ於テモ亦然ルモノアリト雖只此ノ如ク甚シカラサルカ如シ、是レ素ヨリ中等以上ノ社會ニ於ケル風習ナランモ而モ斯ル風習ハ延テ一汎處女ヲシテ淀メナキ心ヲ或ハ一途ニ向ハシムルコトナキニ非ルヘク、之カ爲ニ早ク初經ヲ誘起シ且ツ未タ初經ヲ見ス年少ニシテ婚嫁スル者モ層一層早誘セラレ、ニ至ルヘキヤ明ナリ

而シテ我等ノ忘評ハ專ラ一汎患者ニ就テ實地上ノ見聞ヨリ概括的推知的觀察ヲ下シタルモノニ過キサルモ亦以テ三州婦人一汎ノ氣風ヲ窺フニ足ルベシ、即殆ント氣候ニ於テ等シキ加越能三州ハ教育的方面ニ於テ多少ノ高低遲速ナキニアラサルベシト雖寧ロ先天的風習上俗ニ所謂一汎ニひらけてあるトひらけざるトノ別アリ、此氣風此區別一ニ春機發動期ニ影響シ月經初潮年齡ニ多少ノ遲速ヲ及スモノナラン、且ツヤ又越中及能登ヨリ其境ヲ踰ヘテ隣國ナル當金澤ニ診療ヲ求ムル者ノ如キハ家計上其間幾許ノ費用ヲ辭シ得ヘキ多少ノ餘裕アル社會的或階級以上ニ屬スル者ナラサル可ラズ、故ニ越中、能登ヨリ來ル婦人ハ金澤及其附近ヨリ來ル者ニ比シテ一汎ニ社會的ヨリ上級ノ者タリト謂フヲ得、即本調査人員中其加賀ニ屬スル者ハ社會ノ諸方面ト各階級ヲ通シ彼ノ救恤施療患者ヲモ含ムト雖モ越中、能登ニ屬スル者ハ殆ト斯ル下層社會ノ婦女子ヲ含ムコトナキナリ、是亦越中婦人初經ノ加賀婦人ヨリモ統計的早潮ヲ見シ所以ノ一ニシテ若シ三州共ニ各階級ヲ通シ調査ヲ施サンニハ或ハ加賀越中兩國ノ婦人ニ就テハ其年齡相伯仲シ能登獨リ尙晚來スルノ結果ヲ得ンモ知ルヘカラズ、希クハ各州國ニ於ケル幾多篤學ノ士ヨリ多數ト詳細トヨリ成ル新ナル統計的調査ト精緻ナル觀察ノ下ニ確實ナル成績ヲ報告セラレンコトヲ切ニ期待スル者ナリ

* * * * *

我等ハ其調査ノ主眼トスル所概畧之ヲ述ヘタリ、而シテ今各月ト初潮トノ關係如何ニ就キ自己ノ調査ヲ附記シ以テ從來報告セラレタル諸家ノ統計ト一致スルモノアルヤヲ比較對照スルニ資セント欲ス、一年十二ヶ月、溫帶圈内ニ橫ハル我邦ノ如キニ在テハ月毎ニ變化スル氣候ノ異ルモノアルニヨリ外界ノ風光亦之ニ隨テ變化シ之カ間ニ生息スル人ノ精神上肉體上受クル所ノ影響蓋シ計ル可ラサルモノアラン、加之人爲的祝祭嘉節ノ如キ之ト相待テ少カラサル感興ヲ與フベク天々タル花ノ如キ女性ヲシテ初經ヲ催進スルモノアルヤ疑フベカラズ

第十七表

十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月	月名氏名
57 7.125%	45 5.625%	30 3.750%	44 5.500%	59 7.375%	64 8.000%	64 8.000%	54 6.750%	63 7.875%	160 20.000%	77 9.625%	83 ^A 10.375%	柳氏 ^A 1000
28	17	26	12	38	36	28	21	28	43	51	38	片山氏 366
68	116	108	62	106	136	86	90	114	190	102	98	安田氏 1276
24 8.66%	14 5.05%	17 6.14%	22 7.94%	23 8.30%	22 7.94%	13 4.70%	20 7.22%	39 14.08%	29 10.47%	18 6.50%	36 12.99%	高田氏 277
114 7.19%	127 8.01%	85 5.37%	101 6.37%	166 10.47%	147 9.27%	130 8.02%	127 8.01%	180 11.35%	169 10.66%	111 7.00%	128 8.06%	山崎氏 1585
106 10.6%	79 7.9%	76 7.6%	59 5.9%	69 6.9%	67 6.7%	64 6.4%	87 8.7%	100 10.0%	77 7.7%	116 11.6%	100 10.0%	著者 1000

右ノ表中片山、安田両氏ニ就テハ聞ク所ナキモ高田、山崎及著者ノ統計ハ太陽曆ニ換算シタルモノニシテ神氏ノモノハ太陰曆併用ノモノナリト云フ、而シテ各月ニ於ケル多寡ハ諸氏各一定セスト雖或ハ二月或ハ三月或ハ四月ヲ以テ最多數トシ或ハ六月或ハ九月或ハ十月ヲ以テ最少數トスル所又以テ省察スヘキモノアリ

表 八 十 第

季節	初經多寡ト季節トノ關係比較				
	神氏	片山氏	安田氏	高田氏	山崎氏
春三—五月	38%	25%	31%	32%	30%
夏六—八月	23%	28%	26%	21%	28%
秋九—十一月	16%	15%	22%	19%	20%
冬十二—二月	23%	32%	21%	28%	22%
					32%
					21%
					20%
					26%

更ニ三月四月五月ヲ春トシ六月七月八月ヲ以テ夏トシ九月十月十一月ヲ秋トシ十二月一月二月ヲ以テ冬トスル季節的區別ニヨリ之ヲ類別シ、諸氏ノ報告ト比較スルニ其結果第十八表ノ如キモノアリ、是亦附記スルニ止メ贅言スル所ナカルヘシ乞フ對照參看セヨ

* * * * *

人ハ其境遇ニヨリ即各人ノ世ニ處スル地位教育家庭日々攝ル職業並ニ其ガ生活狀態等ニヨリ後天的ニ精神上身体上種々ノ影響ヲ受クルモノナルコトハ既ニ諸君ノ熟知セラル、所ナリ、我等亦從來報告セラレタル諸氏ノ聲ニ倣ヒ職業上之ヲ區別シ第十九表ヲ得タリ、而シテ各人從フ所ノ業務ナルモノハ職トシテ其分ニ應シタルモノナランモ今其職業上ノ區別ヨリ初經年齡ノ差異ヲ見出サントスルハ事甚タ重要ノ觀アルニ係ラス顧ミテ之ヲ思フトキハ重視スルニ

表 九 十 第

職業ト初經年齡トノ關係		職業																
職業年齡	11	12	13	14	15	16	17	18	19	農	商	工	官吏、醫師、教員	藝妓、旅館、材料等	看護婦	乘船、漁業	日雇、勞働	無職、不明
合計	282	258	66	105	100	17	16	32	124	282	258	66	105	100	17	16	32	124
平均年齡	14.11.23	14.6.26	15.00.19	14.7.2	14.11.12	15.4.4	15.7.3	14.7.19	217.78	506.96	451.19	119.21	184.47	179.39	30.60	29.46	60.06	217.78
人數	11	2	2	3	3	3	3	2	4	2	2	3	3	5	1	3	3	2
平均年齡	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11

足ル確實ノ調査ヲ得ルハ事難シト謂フヘシ、何者我等ガ此調査ニ供セシ女子ノ所謂職業ナルモノハ多クハ結婚後ニ於ケル先方ノ職業又ハ夫ノ職業ニシテ女子其レ自身ノ職業ト稱スルモノハ千中幾十ヲモ越エナルナリ、素ヨリ世ノ複雑ニ赴クニ從ヒ爰ニ結婚ノ難キヲ來シ女子ノ獨立分業ヲ多ク生スルニ至ルベキハ炳也ト雖目今我邦ニ於テハ其憂

猶淺キモノアリ、而モ若シ月經ナルモノガ結婚後ニ於テ多ク初潮スルモノナラバ或ハ結婚ノ爲全ク一變セル地位職業家庭生活並ニ精神状態ノ爲ニ影響ヲ受ケタリト稱スルコトヲ得ンモ、奈何セン月經ナルモノハ未婚者及殊ニ或種ノ職業ニ從フ者ヲ除ク外多數ノ女子ニ於テハ殆ント結婚前既ニ潮來スル現象ナリ、故ニ潮來後ノ職業ヲ以テ反ツテ其初潮時ヲ統計的ニ律セントスルハ我等ノ與ミシ能ハサル所ナリ、是ヲ以テ若シ能フヘクンバ初經當時ノ職業上ヨリ之カ調査ヲ遂行スルヲ得バ比較的真ニ近キモノヲ得ベケンモ、然ラサル場合ハ高田氏ノ女子大學熊谷氏ノ娼妓ニ就テ試ミラレタル如ク凡テノ關係殆ント同一状態ノ下ニ在ル或一團ノ者ニ就テ之カ統計ヲ試ミ比較涉量スルヲ以テ寧ロ其當ヲ得タルモノナルベシト信ス

而シテ上表ニヨリ試ニ職業上ニ於ケル其平均年齢ヲ見ルニ商業家族タル婦女ニ於テ最早ク潮來シ日雇労働婦人ニ於テ最晚ク潮來スルモノアリ、即商ニ於テハ十四歲六ヶ月二十六日ニシテ官吏辯護士醫師教員等家族ノ十四歲七ヶ月二日ヨリモ一ヶ月(日數省捨)、無職及不明者ノ十四歲七ヶ月十九日ヨリモ同シク一ヶ月、藝妓旅館料理屋ノ十四歲十一ヶ月十二日ヨリモ五ヶ月、農ノ十四歲十一ヶ月二十三日ヨリモ亦五ヶ月、女教員看護婦等ノ十五歲ヨリモ六ヶ月、工ノ十五歲十九日ヨリモ同シク六ヶ月、漁業船乗等ノ十五歲四ヶ月四日ヨリモ十ヶ月、日雇労働者ヨリモ一年一ヶ月ノ早潮ヲ見ルナリ、此ノ如ク多クノ人ニ接シ多少開發的傾向アル商ニ於テ早潮シ終日衣食ニ急ニシテ維レ日モ足ラサル日雇労働者ニ於テ最晚來スル所以ハ其間眞ニ興味アルヲ覺ユルナリ

我等ノ月經初潮年齢ニ於ケル調査報告ハ大畧之ニテ尽ク、只此小報告異ヲ列テ類ヲ彙メ以テ其庸道ヲ求ムルニ當リ這裡一條ノ通性ヲ發見スル一資料トナラハ幸ナリ、終リニ臨ミ後來ノ備忘ニ迄更ニ次頁ノ二表ヲ附記シ、併セテ參考誌類閱覽ニ就キ快ク之カ借讀ヲ許サレタル山田止善堂病院長、村上金澤醫學專門學校教授ノ好意並ニ宇野益之氏

ノ十全會圖書出入ノ勞ニ向テ深厚ノ謝意ヲ表ス

合計人員	村			町			市			初經年齡
	計	改曆前	改曆後	計	改曆前	改曆後	計	改曆前	改曆後	
8	5	1	4	1		1	2		2 ^人	11 ^才
52	18	4	14	10	3	7	24	2	22	12
218	78	16	62	54	12	42	86	11	75	13
288	97	20	77	63	13	50	128	17	111	14
243	93	24	69	57	10	47	93	19	74	15
115	59	15	44	25	6	19	31	7	24	16
47	27	11	16	5	4	1	15	4	11	17
23	6	4	2	5	1	4	12	2	10	18
6	3		3	2	1	1	1		1	19
1000 ^人	386	91	291	222	50	172	392	62	330	合計人員

合計人員	前越		登能		中越		賀加		初經年齡				
	計	改曆前	計	改曆前	計	改曆前	計	改曆前					
8			1	1	2	2	5	1	4 ^人	11 ^才			
52			8	2	6	18	5	13	26	2	24		
218	8	2	6	22	8	14	90	11	79	98	18	80	
288	7	1	6	28	9	19	108	17	91	145	23	122	
243	3		3	33	3	30	76	23	53	131	27	104	
115	2		2	21	7	14	45	10	35	47	11	36	
47				11	7	4	10	2	8	26	10	16	
23							4	1	3	19	6	13	
6				1	1		2	1	1	3		3	
1000 ^人	20	3	17	125	36	89	355	70	285	500	98	402	合計人員

右編ハ去四月十七日金澤醫學專門學校濟々堂ニ於テ開催セル第七回北陸醫會ニ於テ小川教授ニ代リ八田氏ノ報告セラレタルモノニシテ今其稿ヲ得
 爰ニ掲グルモノナリ (編者識)

(二十九年四月稿一完)